

10年目のご挨拶

Cover Story

新入生諸君，入学を心より歓迎いたします。在校生諸君も新たな年度を迎えられたことを祝福します。この新たな一年が実り多きものでありますように。

「緑豊かな…，自然に恵まれた…」という形容詞を冠されることの多い本校ですが，この「豊かな…，恵まれた…」という言葉は『何がどのくらいあるのか』を知って初めて意味を持ちます。本誌はその意味を持たせるために2002年に発刊されました。以来，本校で見ることのできる動植物，気象・天文現象，本校を取り巻く地形・地質，同じく本校でリアルタイムに観測している地震・放射線量…など，さまざまな話題を提供してきました。

そして，今年10周年の節目の年を迎えました。本誌は理科や国語科，社会科などの教科はもちろん，職員の方々ともコラボレーションしながら編集されています。それは既成の（特定の）教科枠にとらわれることなく自分を取り巻く空間（自然）を見つめるためです。そして時代を横目にこれからも多くの話題を提供し続けていくつもりです。

今回は巻頭のストーリーを，情報科の助手でいらっしゃる本多圭介さんをお願いしました。自然科学に深い造詣をお持ちな博識の方です。今回は『鶯色』に関するお話，ぜひご一読を。



(Miyahashi)

鶯色って、どんな色？

今年の冬は寒さが厳しく，春はゆっくりゆっくりやって来た。東京近郊では4月に入っても梅の彩と香を愛でることができた。梅と言えば，鶯。「梅に鶯」という成語が浮かぶように，日本人にとって両者のイメージは固く結びついているようだ。

では，鶯ってどんな鳥？「知ってるよ，”ホーホケキョ”って鳴くんでしょ。」「鶯豆とか鶯餅って鶯色でしょ。だから，鶯は黄緑色だよ。」「花札で，”梅に鶯”の札には黄緑色の鳥が描かれているじゃない。あれが鶯さ。」本当だろうか？鶯は雀ほどの大きさで，体色は薄い褐色。昆虫類を好んで捕食する。性質は憶病で，藪の中など目立ちにくいところに棲息する。そのため，簡単には姿を捉えにくい。ホーと鳴くのは息を吸う時で，ホケキョは息を吐く時の鳴き声。そんな薄褐色の鳥の色が，なぜ鶯色なのか？実は，鶯色は鶯の色（薄い褐色であり，黄緑色ではない）。JIS(日本工業規格)でも，鶯色はそういう色と定義されている。ではなぜ，本来薄い褐色である鶯色が黄緑色であるという誤解が広がったのだろうか。

メジロが，ヒントを与えてくれそうだ。

メジロは雀よりやや小さな鳥で，体色は黄緑色。眼の周りは真っ白（「目白」）。性質は快活で人をさほど恐れない。花の蜜など甘いものを好み，梅を始め多くの樹花に集う。（毎冬，慶應通り前のマンション敷地の山茶花や校内の椿でさえずる姿は，志木高の風物詩。）梅を愛でる際，「ホーホケキョ！」という美声。「おお，なんと風流な！して美声の主は何処？おー，あの黄緑色の鳥（メジロ）か。」（鶯は地味な体色。且つ憶病なので，その姿を認知しにくい。対照的にメジロは人目に付きやすい。）そんな誤解が，鶯色=黄緑色という認識に繋がったのかもしれない。

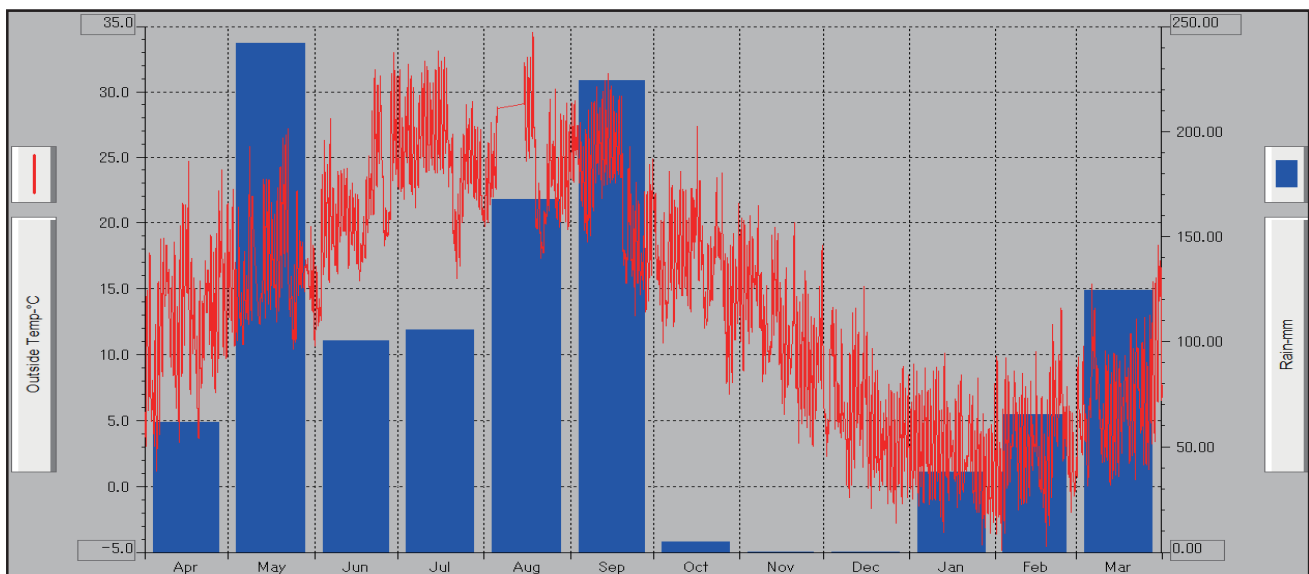
知っているようで，実は誤解していた。そんなことは多くある。多くのヒントが，このキャンパスで君たちを待っている。

(Honda)

1999年度より校内で10分ごとの気象観測を行っています(自動気象観測)。観測している気象要素は、気温のほか気圧、風向・風速、降水量(雪は融けた水量)、湿度、太陽放射量、紫外線インデックス等です。グラフは2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日、一部欠測日あり)一年間の気温変化と降水量変化です。

この一年で印象的な出来事は「台風による帰宅困難者」でしょうか。9月の台風15号はその中心気圧940hPaという近年まれにみる低い気圧で日本の南岸を移動し上陸しました。風速40m/sを超える暴風(風速25m/s以上の強風を暴風という)で首都圏の電車の運行は麻痺し、会社や学校から帰宅する人々が駅に殺到しました。この教訓は今年3日の日本海低気圧の暴風の際に役立ち、早めの帰宅が徹底した結果でしょうか、大きな混乱はなかったようです。さらに、この9月の台風を境に10～12月の降水量が激減しているのも目を引きます。

年が明けてからはずいぶん寒い日が続きました。その分、降水が雨ではなく雪になった日が多かったですね。1・2月の厳冬期は気温が10℃を超える日がほとんどありませんでした。最低気温が-5.0℃に達した日もあり、毎日のように鴨池(教員室下の防火用水)が凍っていました。さて今年はどうなるのでしょうか。



金環日食 5月21日(月) 午前7時32分～7時37分の5分間

必見です！日本で広く見られる次回の金環日食は300年後の2312年です！（北海道に行けば2030年。）今回の日食は午前6時19分にはじまり、午前9時2分に終了します。その中ほどの5分間が金環日食です。もう一つ、

金星の太陽面通過6月6日

これも必見です、と言いたいところですが、現象が地味でしょうか。太陽の前を金星が通過する現象です。ところが太陽が大きすぎるため、金星の影が黒い点のようになるだけ！？の現象です。実は8年前にもありましたが、次回は何と105年後の2117年12月11日です。いずれにしても、天気が良く観察できることを期待しましょう。

図書館と音楽室の間が整備されたのに気づかれた人も多いと思います。この場所は道ではなく元は芝生があったのですが、通行者がとても多いので芝がなくなり、雨天にはぬかるみ、教室まで泥になるというので、敷石を置き再び芝を植えることになったのです。

この場所に古いアンズの大木が2本あるのを知っていますか。今回の道はちょうどこの2本の木の間を通るように作られているので、行っていただければ「アンズ」の札がかかっているのだからと思います。私も20年くらいこの学校にいますが今回初めてこの花を間近で見ました。それはちょうどこの工事が卒業式前後に行われ、花満開の枝を伐採することになったからです。以前は枝が高すぎて近くで見ることは出来ませんでした。その時、切られた花満開の枝を何気に嗅ぐといい梅の香りがしました。あれ？これは梅の花？そこで初めて気づきました。これはアンズではなくウメの木なのかなと。アンズの花はほとんど香りませんが、ウメの花はほのかない香りがします。また花の萼片が反り返るのがアンズで反り返らないのがウメと言われています。この点に関してはこの木は反り返りが中途半端です。また、おそらく「アンズ」の名札をつけられたきっかけとなった実が黄色く大きいという特徴の記憶もあり、アンズのようなウメのようなやはり変な木だということいろいろ調べてみることにしました。結果、ウメにもたくさんの品種があり、なかでも豊後梅とよばれる仲間は実が大きく、萼片も反り返りが見られたり、一説にはウメとアンズを交雑してできたという説があるくらいアンズに似た特徴をもつウメだという事として、おそらくこの豊後梅だろうと私は思います。

先日、すでに退職された昔を知る先生にお会いしたときに、そのウメの話をしたところ、その昔まだ学校の塀がきちんとしてなかった頃、近隣の人たちも校内を自由に出入りしており、大きなウメの木があって、たくさんの立派な実をつけるので、皆、それを腕いでいったんだと。それを一度、移植して、図書館前にあるのだろうかということでした。

詳しくは、夏に実をつけたときにその種子を見るとさらにわかると思います。皆さんもぜひ気にかけて見てください。ちなみに本物のアンズは、体育館前のトイレの裏の芝生に、数年前に英語部軽音パートの卒業生が植樹したのがあります。

(Izawa)

春草幻想

Wa-ka

萬葉集 卷第十九

四一四三

大伴家持

堅香子の花を攀ぢ折れる歌一首

物部の八十少女らが汲みまがふ寺井の上の堅香子の花

堅香子はカタクリの花のこと。「物部の」は枕詞で朝廷に奉仕する百官たちがずらりと勢ぞろいする様を表し、たくさんのという意味の「八十」にかかる。「数え切れないほどたくさんの乙女たちが入り乱れ渾然一体となって寺井の水を汲んでいる、その傍らに咲くカタクリの花よ」という歌だ。袖を翻し腕を交差させ、水を汲む乙女たちの笑いさざめきも聞こえてくる。

志木高のカタクリは四月に入り開花した。白みがかった緑色のハート形の大きな葉から銅色の茎がすっと伸び、それがうつむいたところからカタクリの花は開く。鋭くとがった紫の花弁は、いったん下を向いた後きりりと天に向かって上がっていく。花の中から濃紫の雄蕊が顔をのぞかせ、真ん中には薄紫の漏斗状の雌蕊がほっそりと伸びている。花弁の根元には淡い矢羽の模様が浮かぶ。この花があちこちに群がって咲くさまは、なんとこの歌の風景と一致していることか。鮮やかな花弁の交錯は、入り乱れる乙女たちの袖そのものである。つまりこの歌の風景、井戸のほとりで入り乱れて水を汲む乙女たちは、実はカタクリの花が咲き乱れるさまから空想された家持の幻想ではないか。という説があるのだが、私もこちらに傾く。

国語科の北陸研修旅行が行われていた頃、越中万葉の舞台にも足を運び、この寺井の跡というのにも立ち寄った。しかし、この歌の風景はどのようにしても思い浮かべることができなかった。寺の井戸で水を汲む数え切れないほどの乙女たちを、井戸の傍らの堅香子の花と一つの画面に入れようとする、歌の風景が消えてしまう。が、実際のカタクリを眺めていると水を汲む乙女たちの姿が消えることはない。

カタクリは「春の妖精」と呼ばれる一群の植物たちの仲間だ。これらの植物は、春先の一瞬だけ地上に現れ、あっという間に地下に隠れてしまう。春の目覚めが見せる一瞬の夢を、また別の夢に繋いだ、後期萬葉の技巧が生んだ一首。

(Hayami)

志木の自然[睦月(1月)如月(2月),弥生(3月),卯月(4月)]

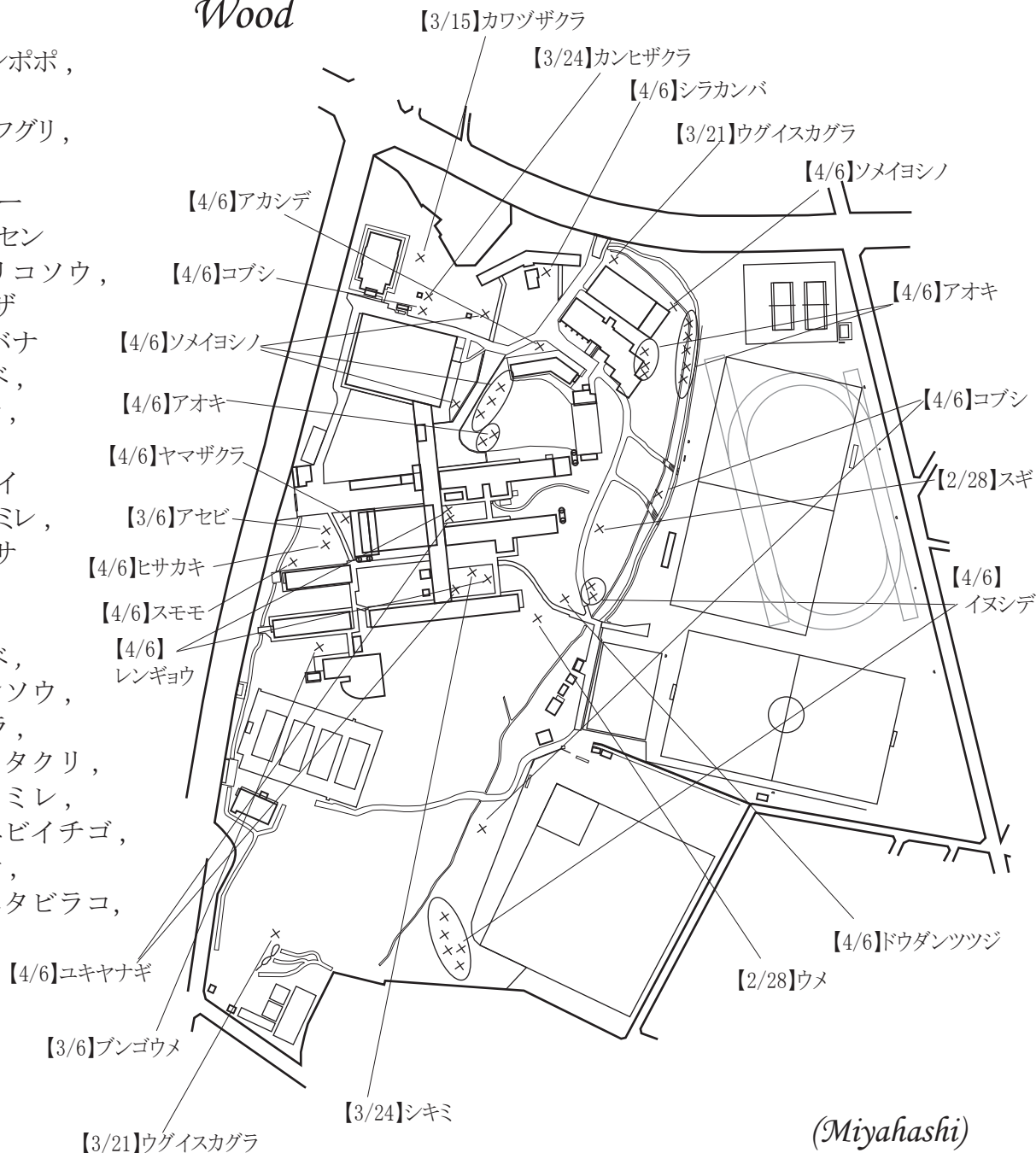
今年は桜の開花が遅れた。昨年2月26日には開花していたカワヅザクラが今年開花したのは3月15日である。今年の2月の平均気温は昨年比べて2℃近く低かった。おそらく、それが花芽の形成を遅らせたのだろう。だが、そのおかげでソメイヨシノは入学式に程よく間に合った。

[2012年1月～2012年4月までの開花情報]

Grass

- 8.Jan. 2012 カントウタンポポ,
ナズナ,
オオイヌノフグリ,
アキノゲシ
- 21.Jan. 2012 ローズマリー
- 4.Feb. 2012 ニホンズイセン
- 16.Feb. 2012 ヒメオドリコソウ,
ホトケノザ
- 22.Feb. 2012 タネツケバナ
- 28.Feb. 2012 ミドリハコベ,
チチコグサ,
ニワホコリ
- 15.Mar.2012 ショカツサイ
- 18.Mar.2012 タチツボスミレ,
カヤツリグサ
- 21.Mar.2012 フキ
- 24.Mar.2012 ノゲシ
- 4.Apr.2012 ウシハコベ,
キュウリグサ, キランソウ,
チチコグサ, ハナニラ,
カラスノエンドウ, カタクリ,
セイヨウカラシナ, スミレ,
カントウタンポポ, ヘビイチゴ,
ヒトリシズカ, スギナ,
ムラサキケマン, オニタビラコ,
オオジシバリ

Wood



(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)
	編集	荒巻 知子 (Aramaki)